

がんになっても幸せに暮らそう

～ちゃんと決めまい自分のこと～

日時 2018年3月3日（土） 13:00～16:00

場所 かがわ国際会議場

プログラム

総合司会：中條 浩介（香川大学医学部麻酔学講座 准教授）

開会あいさつ

久米川 啓（香川県医師会 会長）

第1部 基調講演

「がんになっても安心して暮らせる情報づくりと地域づくり」

渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授）

「がんに関心をもち、人生を台無しにされないための大事なお話 -Advance Care Planning-」

辻 晃仁（香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授）

休憩（質問票を回収いたします）

第2部 フォーラム モデレーター：渡邊 清高、辻 晃仁

講演

「乳がん患者におけるACPの実際」

吉澤 潔（久米川病院 院長）

「家に居る、地域で暮らすという選択」

三宅 敬二郎（在宅診療敬二郎クリニック 院長）

「いつもの風景のなかで終えていくために～納得した意思決定をするとき～」

長内 秀美（香川県看護協会高松訪問看護ステーション 所長）

ディスカッション

まとめ・閉会あいさつ

横見瀬 裕保（香川大学医学部附属病院 病院長）

閉会（アンケートにご協力ください。受付に回収箱を用意しております）

ACP（Advance Care Planning）とは、今までの人生の過ごし方、生活、価値観などを共有し、患者さんの希望や生活を尊重しながら、将来の状態変化にも備えることをいいます。



登壇者プロフィール

渡邊 清高（わたなべ きよたか）

帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科准教授（腫瘍内科・がん情報）
1996年東京大学医学部卒。医学博士（消化器・肝臓内科）。
内科、救命救急研修を経て、東京大学医学部消化器内科、国立がん研究センターがん対策情報センターを経て2014年より現職。
地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクトリーダー。
患者・家族、一般市民、医療従事者、研究者向けなど、がんに関する信頼できる情報発信と、現場のニーズに応じた普及の取り組みを実践しています。



辻 晃仁（つじ あきひと）

香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授。
同附属病院 がんセンター長、緩和ケアセンター長、腫瘍内科科長兼務。
1990年岡山大学医学部卒。1994年同大学大学院医学研究科修了 博士（医学）取得。その後、高知県立中央病院（現 高知医療センター）、神戸市立医療センター 中央市民病院 腫瘍内科部長、がんセンター長兼務を経て2015年より現職。
専門は消化器がんをはじめとする各種がんの化学療法、チーム医療、外来化学療法、医療連携。がんになった患者さんにどういった治療をすれば最良の結果が得られるかの相談窓口として、最高の治療を県民のみなさんに提供するため、最新の診断学、治療薬などを開発し、臨床への導入を行っています。



吉澤 潔（よしざわ きよし）

徳島県美馬市出身。
1978年3月徳島大学医学部を卒業し、同大学第2外科（胸部外科）に入局。
国立善通寺病院外科勤務の後、1980年3月徳島大学大学院に入学。
1984年3月同大学院卒業後、同年4月より高松赤十字病院外科に勤務。
肺がん、乳がんを中心とする外科手術・化学療法、緩和ケアなどに従事。
2014年6月副院長職を最後に30年間勤務した同病院を退職。
同年7月より医療法人社団啓友会久米川病院 理事長・院長に就任し現在に至る。



高松市医師会理事、香川県がん対策推進協議会委員、香川県がん診療連携協議会緩和ケア・相談支援部会長、香川県がん教育推進協議会委員長、高松市在宅医療連携会議委員長、高松市教育委員、香川県市町教育委員会連絡協議会会長などを歴任または在任中

三宅 敬二郎（みやけ けいじろう）

医療法人社団慈風会 在宅診療敬二郎クリニック 院長。
私は元外科医ですが、2007年メスを置き、在宅診療専門クリニック開業しました。これまで1000人以上を地域で看取りました。患者さんの約半数は末期のがん患者さんです。その他、慢性臓器不全、脳血管障害、神経難病、老衰などの方々の在宅療養を支援しています。地域へ『おうちに帰ろうを応援します』というメッセージを送り続けて10年、今後がん診療の分野においては在宅緩和ケア医として地域医療に貢献したいと思います。在宅においても在宅ホスピスと言われるように病院とほぼ同様の緩和ケアを受けることができます。老いても病んでも自宅で居る、地域で生きることが可能です。そのためには在宅医療のことを知り、ご自身がどのような療養（生き方・逝き方）を希望するのかを決め、家族や周囲の人と準備することが大切です。



長内 秀美（おさない ひでみ）

福井県で生まれる。福井県立美方高校卒業
1976年 兵庫県立総合衛生学院看護学科1部入学
1979年 兵庫県立総合衛生学院看護学科1部卒業
1979年～1984年 神戸・鐘紡病院勤務(現在・鐘紡記念病院)

結婚し、香川県へ

1999年 社団法人香川県看護協会(現在・公益社団法人)高松訪問看護ステーション
2010年 同施設所長就任



～ アンケートにご協力ください ～

フォーラム後半のディスカッションにて、皆さまからのご質問をお受けいたします。お手元の【質問票】（黄色）にお書きいただき、休憩時間内に、受付もしくは係の者にお渡しください。

また、フォーラムが終了しましたら、【アンケート用紙】（ピンク）にご記入いただき、出口の回収箱にご投函いただくか、係の者にお渡しください。

今後のこうした取り組みを全国に広げるための参考とさせていただきますので、ぜひともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アンケート
用紙

質問票

地域におけるがん患者の療養支援情報 普及と活用プロジェクト

<http://homecare.umin.jp/>

がんの在宅療養



地域におけるがん患者の
緩和ケアと療養支援情報
普及と活用プロジェクト

がん患者さんが、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすときに役立つ情報をまとめました。これまでのがん医療フォーラムでいただいた声、在宅での療養をよりよくしたい患者さん、ご家族の意見や提案をまとめる形でつくられています。地域でのフォーラム、アンケートなどを通して、顔の見える関係づくりを進めていくことが、がん患者さんを支える社会づくりの第一歩だと考えています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。



「在宅療養ガイド」制作と プロジェクト創設にいたるまで



渡邊 清高 さん

(帝京大学医学部内科学講座 准教授/腫瘍内科・がん情報)

公益財団法人 正力厚生会

<http://shourikikouseikai.or.jp/>

正力厚生会は、読売新聞東京本社からの寄付金などをもとに「がん患者さんとそのご家族を支援する」事業活動を行っています。主な助成実績は次の通りです。

〔がん患者団体への助成〕

がん患者団体による講演会開催や情報発信のためのサイト構築などの事業に対し、上限50万円を贈ります。2007年度からこれまでに、延べ240団体に助成してまいりました。詳細は正力厚生会の公式サイトをご覧ください（2018年度助成申請は締め切りしました。2019年度助成の募集要項は、今夏までに、正力厚生会のホームページでお知らせする予定です。）。

〔医療機関への助成〕

当フォーラムにかかわるプロジェクト（2012年度から）のほか、▽国立がん研究センター相談員養成講座（2006年度からの5か年）▽がん研究会有明病院データベース作成（同）▽医療機関による「がん」がテーマの小冊子作成（2010年度までに計10冊）▽東京大学医学部附属病院との共催シンポジウム▽静岡県立静岡がんセンター「Web版がんよろず相談Q&A」構築一があります。

〔読響ハートフルコンサート〕

QOL（生活の質）向上の一環として、2007年度から読売日本交響楽団のメンバーが全国のがん診療連携拠点病院などを訪問。弦楽四重奏を中心に患者さんやご家族の皆さん、医療従事者の皆様に質の高い音楽を楽しんでいただいています。これまで72医療機関で開催しました（2018年2月末現在）。